

令和6年度(7年度実施)各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

<主な取り組み事例>

番号	内容	部局名	取り組み事例
2-3-1 2-3-2 2-3-3	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	教育学部	2019年度より上記の進路希望調査を開始し、データが蓄積され、1~4年どのの時期に教員志望率が低下しやすい傾向にあるかが明らかになってきた。そのため、その時期に合わせて現職教員等による教職の魅力語る場を設定することが可能となった。また蓄積されたデータを基に、教員志望の4年間推移をパターン別に分け、パターンに応じた学生への働きかけを検討することができた。
		地域科学部	卒業生アンケートにおいて、「十分」と「おおむね十分」を足した値が比較的低い項目として、「文章や口頭発表の表現力」(87%)、「国際的な視野を持って多様な文化を理解する能力」(81%)があった。しかしR5年度アンケートでは、「文章や口頭発表の表現力」(80%)となっており、大幅に向上した。コロナ禍にありながら発表機会を十分に確保するなど、各教員が工夫して取り組んだことが功を奏したと考えられる。
		医学部医学科	分析に基づき改善を検討した結果、教員の視点及び6年間医学教育を受けて卒業する学生の視点から現行の医学専門教育に関する課題を明らかにして、カリキュラムの見直しを行い、令和7年度から3年生を対象に課外時間に研究活動に取り組めるように調整した。入学者選抜方法、入学後の学修状況、医師国家試験の合格者数を分析して、入試の実施方法の検討を継続した。卒業試験の出題方法を見直した結果、令和6年度は受験者110名のうち108名が卒業試験に合格して卒業し、卒業生108名のうち107名が医師国家試験に合格することにつながった。
		医学部看護学科	令和6年度の卒業生の雇用先に対するアンケート調査では、「グローバル化・国際化の動向における看護の在り方」「保健医療福祉における協働と連携」の理解が低いことが示された。さらに調査結果を詳細に分析しカリキュラムを点検・評価し、必要時、改善案を提案していく。
		工学部	リフレクションペーパーを通して、各教員がそれぞれの授業において工夫・配慮・考慮などの改善に取り組んでいる。また、リフレクションペーパーの結果と授業評価アンケートの集計結果は、教育改善につなげるべく、教育改善室で確認するとともに他の教員の取り組みの内容を自身の改善に役立てられるよう、全教員に共有している。
		応用生物科学部	後学期ガイダンスの実施時期を9/30から後学期履修登録前に変更し、帰省中の学生が多くいるために実施方法をオンデマンドに変更することとし、学生の単位の取りこぼし(特に全学共通教育開講科目)にアプローチすることができた。
		社会システム経営学環	2年生後学期から始まるデザイン実習について、学生の成長の評価とともに、外部の実習パートナーによる全般的な評価が得られるような仕組みを作った。これにより、学生に対する自己評価を段階的に行うアンケートや、実習パートナーから評価を得るためのシートを作成し、実践した。
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	医学部医学科	FDでは、学内診療科及び学外の実習先医療機関から指導医が参加し、臨床実習のあり方や医学生が許される実習での医行為について情報を共有し、診療現場での学生評価の方法、ポートフォリオの活用、学生が問題行動を起こした場合の対応を意見交換した。実習先から寄せられた意見・要望や質問を持ち帰り、選択臨床実習の授業内容や指導方法の見直しを図った。
		自然科学技術研究科	「研究指導を円滑にするために」(R6.11.20)参加者数:190名(応生系73名、工学系117名) ・近年、研究室の運営や教員-学生間の関係での相談が増えている中で、研究科として課題意識を共有することが出来た。 ・FD実施以降に類似した事案が発生した際に対応について、FDの内容を参考に対応を検討している。 ・リフレクションペーパーの実施により、各教員が授業評価アンケートの結果も参考に担当する講義について振り返り、改善点の検討につながっている。 ・FDの実施やリフレクションペーパーの内容を、構成員で共有することで、FD同様に授業改善に関する情報を提供している。
		共同獣医学研究科	以下のFDを開催した。 ①R6.7.24「研究科共通科目『アカデミック・イングリッシュ』の改善に向けて」21人 ②R6.9.25「鳥取大学との共同授業『学際領域特別演習』の改善に向けて」21人 ③R6.12.25「成績評価の分布の点検について」23人 ④R6.3.26「研究科共通科目『生物情報解析学特論』の改善に向けて」21人 プレゼンテーション技能を向上させる内容の授業に対する要望が大きく、FDにおいて意見交換をし、基盤特別講義、基盤特別演習、スペシャリスト特別講義、スペシャリスト特別演習において、プレゼンテーション技能の強化を意識した内容を盛り込むこととした。
5-2-2 5-3-1	学生の受入が適切に行われていること 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	医学部医学科	令和5年度入試から後期日程での学生募集を廃止して、学校推薦型選抜と前期日程の募集人員を増員した。また、前期日程の個別学力検査の面接試験を従前より時間を掛けて実施できるように、1段階選抜の合格者を定員の9倍から3倍とする変更を行った。入学者選抜方法の変更の際は、医学教育IR室が過去の医学科の志願者及び合格者の得点を分析した結果を元に、医学科入試委員会で検討して決定した。
		工学部	・入試委員会において、入試状況を踏まえて検討している。 ・「高度情報専門人材確保に向けた機能強化」の採択に伴い、電気電子・情報工学科 情報コースの定員を変更した。推薦Ⅱ 8名→11名 ・前期日程 32名→44名、後期日程 28名→33名 過去の検討例 ・英語能力の向上等を目的に一般入試の配点を変更した。 ・推薦Ⅱの出願時期を大学入試センター試験後に変更した。 ・3年次編入学試験の入試別募集人数を変更した。 ・推薦Ⅱ及び3年次編入学試験の出願資格の見直しを行った。
		社会システム経営学環	学校推薦型選抜Ⅱについて、獲得したい学生像に照らし合わせ、「商業・工業・農業等の実業に関する学科」の募集枠を令和8年度入試から実施する。

令和6年度(7年度実施)各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

6-3-2	授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	教育学部・教育学研究科	教学委員会や教授会にて、「岐阜大学シラバス作成ガイドライン」に基づいたシラバスの確実な記入を依頼し、各講座や教学委員長、学務係にてシラバス点検を行った。記入不備科目については、追記や修正を求めた。
		地域科学部・地域科学研究科	第14回教務厚生委員会(2月5日)の終了後、「岐阜大学成績評価基準」「岐阜大学シラバス作成ガイドライン」等に基づいて、教務委員による全科目についてのシラバスチェックを行った。不備のあるものについては、当該教員へ加筆修正を求めた。
		応用生物科学部	年度末に全教員に対しアンケートにより「シラバス・成績評価に関する自己点検評価」を行っており、令和6年度は95.1%の教員がシラバスの記載どおりに授業を実施したと回答、一方成績評価は、教員全員がシラバス記載どおりに実施できたと回答した。次年度の改善計画についても学生の理解を深める具体的な工夫・改善点が多く寄せられた。
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	地域科学部	学修成果を可視化するための取り組みとして、卒業論文および修士論文の提出者全員を対象に、主査および副査の教員に「学修成果評価書」の提出を求めた。この評価書では、本学部のディプロマ・ポリシーに記載された能力の項目ごとに達成度を4段階で評価した。
		社会システム経営学環	次年度シラバスの点検及びシラバス作成に関するFDIにおいて、「到達すべき目標」と成績評価の整合性の必要性を確認して、改善すべきと思われる点が修正された。
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	連合農学研究科	国費留学生の主指導教員については、指導学生が過年度生になった場合、今後の指導計画について研究科長や専任教員と面談し、今後の指導計画について再確認する。
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	教育学部	卒業生の教員就職率について、毎年6月に、学校種別、県別及び講座別に分析し、教授会において説明を行っている。また、先に述べた進路希望調査結果を指導教員にフィードバックしきめ細やかな進路指導を行うとともに、学年全体の傾向を1月教授会において説明し、進路指導の方針を伝えている。
		応用生物科学部	応用生命科学課程及び生産環境科学課程の2課程は、専門性進路率が過去5年すべてで9割に達している。共同獣医学科は、ほぼ100%の者が専門性に関連する進路に進んでいる。
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	教育学部	学部生については、入学時に学修録(カリキュラムマップの時系列に沿って、自らの学習記録を定期的に振り返り、教師としての力量を自律的に身につけるための記録ファイル)を配付しており、4年間の学修の記録、レポートを積み重ねさせ、4年次の教職実践演習において自己分析させている。また、卒業時のアンケートにおいても達成度、満足度を聴取している。
		地域科学部	学部卒業生アンケートにおいて、「地域科学部のカリキュラムが目指している以下の能力や知識の向上は、どの程度達成できましたか」という設問を設け、9項目について尋ねたところ、うち5項目で95%以上の学生が「十分」または「おおむね十分」と回答している。それ以外についても、90%程度の学生が「十分」または「おおむね十分」と回答している。(1項目のみ81%)
		医学部医学科	医学部医学科では、卒業式当日に卒業時アンケートを実施し回答を得ている。結果については、医学教育IR室にて分析を行い、今後の医学教育の改善に利用している。また、4年次11月から1年間実施される院内臨床実習が終了した後の11月末にポートフォリオを点検している。学内臨床実習指導教員が臨床実習ポートフォリオ評価用ルーブリックに基づき、評価を行っている。